



ご自由にお持ちください

日本赤十字社

秋田赤十字病院 広報紙

あいのまど

2016.8
Vol.27

様々なかたちで支援

熊本地震災害の救護活動について



活動初日、午前6:30に集合した救護班。

1 全容の見えない被災地へ 被災者のいのちと健康を守る 「救護班」派遣

この原稿を書いている時点で熊本地震発生からすでに3か月が経過していますが、未だに被災者の多くは苦闘されていることを察し心よりお見舞い申し上げます。

日本赤十字社秋田県支部救護班9名は4月22日午後熊本市へ移動しました。記録的な余震の多さの中で、倒壊した家屋や崩壊した道路の復旧は全く進んでいない状況でした。

地震発生直後に全国から集まった災害救護班第一陣が初期対応を終え、それを引き継ぐ形での被災地活動が我々の任務であり、阿蘇医療圏対策本部からの救護班要請により翌日から活動を開始しました。

4月23日、阿蘇市西地区内の巡回診療を実施し、下痢の避難者増加のため、感染拡大に備える対応をしました。4月24日から南阿蘇村長陽地区を担当しており、南阿蘇中学校の体育館でも下痢の患者が連日増加し、不衛生な環境でのウイルス感染が懸念される状態でした。重症の避難者を病院へ搬送し、次に体育館内の土足状態を禁止。体育館全体の清掃と清潔域の徹底をした後、

4月14日に発災した熊本地震。日本赤十字社は発災直後から現地へ救護班を派遣しました。全国から駆け付けた人数は約1,600名に上りました。

当院も、熊本へ職員を派遣。避難所等での診療にあたる「救護班」を派遣したほか、熊本赤十字病院に絶え間なく訪れる被災者の診療・看護を行う「病院支援」、被災者のために休みなく仕事を続ける役場職員の「こころのケア」を行いました。今回はその活動を集めます。

期間：4月22日～27日

班員：医師1名、看護師3名、薬剤師1名、事務職員2名
秋田県支部より2名

場所：阿蘇市、南阿蘇村



救護所での診療を行いました。4月25日は午前中に救護所での診察、午後には長陽地区の各避難所の巡回診療。4月26日も巡回診療を行い、夕方熊本県支部に活動報告をして終了しました。

地震発生直後の外傷患者への対応とは異なり、1週間経過した被災地域での活動は、避難所生活での深部静脈血栓症(いわゆるエコノミークラス症候群)や感染症への適切な対応が要求され、避難期間の衛生対策、疾病予防対策の重要性を改めて痛感する体験でした。(神経内科副部長 柴野 健)

「あいのまど」とは……当院の病棟では個室も4床室も患者さん一人にひとつ窓があります。

その安らぎの療養環境からイメージを得て病院歌「愛の窓」が作られ、そこから着想したものです。

2 熊本赤十字病院の一員として支援 「病院支援」派遣

期間:①4月29日～5月4日 ②5月7日～13日
班員:①医師1名 ②医師1名、看護師2名
場所:熊本赤十字病院

5月7日～13日まで熊本赤十字病院へ業務支援に行ってきました。私は一般病棟で姫路赤十字病院の方と共に、主に看護業務を行いました。

患者さんに「どこから来たの?」と聞かれ「秋田です」と答えると、ほとんどの方が驚き、中には涙を流して感謝の言葉をくださった患者さんもいました。

病院の職員も被災者で、ライフラインは回復していても自宅に住むことができず、避難所や親戚の家から通勤している職員もいました。しかし、みんな元気に頑張っている姿が印象的でした。

北海道から沖縄まで全国の赤十字施設から支援にきており、赤十字のつながりの強さを感じました。

私達の活動が少しでも熊本赤十字病院や地域の方々の力になっていけばいいと思います。これからも復興を願い、支援していきたいと思います。

(5 A病棟看護係長 成田 真理子)



熊本赤十字病院で働く友人に再会することができました。(右が筆者)

3 「被災者を支える役場職員」を支援 「こころのケア班」派遣

期間:5月25日～31日
班員:助産師2名、臨床心理士1名、事務職員1名
場所:益城町役場



役場内の職員休憩室にて。
助産師がハンドマッサージをすると、自然と語り始める職員。臨床心理士も耳を傾けます。

発災から1か月を過ぎ、救護活動は救護所や病院から避難所の住民とその支援者への支援へと移っていました。こころのケア班は被害の大きかった益城町の役場で活動。役場職員は地震発生以来「住民を支える我々が休んでいる場合ではない」と気を張り続けていました。

職員の被災体験やこれまでの活動を傾聴したほか、ハンドマッサージやストレッチ体操、肩もみや温かいお茶を提供し大変喜んでいただきました。災害で受けたストレスが軽くなると、笑顔や挨拶が増え、住民への温かい対応につながる様子を見て、被災者でもあり支援者でもある人へのこころのケアの大切さが身に染みた体験でした。(新生児病棟看護師長 大原 純子)

